

平和について考えよう

総務課広報情報係 ☎ 25 1114

オバマ大統領広島訪問

今年5月27日、アメリカのバラク・オバマ氏が現職の大統領として初めて被爆地・広島を訪れました。オバマ氏は大統領就任直後の2009年4月5日、チエコのプラハで「核なき世界」を提唱しました。その後、核軍縮などの問題で国際的指導力を発揮したとしてノーベル平和賞を受賞し、これまで核廃絶に向けて意欲的に取り組んできました。

今回の広島訪問では、平和記念資料館を視察し、原爆死没者慰霊碑で献花しました。その後の演説では、核兵器の

恐ろしさや、核なき世界を追及していくことを強調しました。

日本は1945年8月6日広島に、9日長崎に原子爆弾が投下され、広島では約14万人、長崎では約7万人が犠牲となりました。世界で唯一の核兵器による被爆国として、再び広島・長崎の悲しみを繰り返さないよう、世界に、そして後世に核兵器の恐ろしさを伝えていかなければなりません。

原爆で犠牲になったかたを追悼するとともに、平和の尊さについて改めて考えてみましょう。

非核平和都市宣言

世界の恒久平和と人類の安全は、全世界共通の願望である。しかしながら核軍備拡大競争は依然として続けられ、今や人類の生存に深刻な脅威を与えている。われわれは、世界唯一の核被爆国民として、被爆の恐ろしさ、被爆者の苦しみを、世界各国に訴え、再びあの惨禍を繰り返させてはならない。よってわれわれ鳥羽市民は、世界の恒久平和と人類の安全の確保のため、核兵器の廃絶と軍備縮小を全世界に訴えるとともに、「持たず・つくらず・持ち込ませず」の非核三原則がすべての国の原則となることを強く希求し、ここに鳥羽市を非核平和都市とすることを宣言する。

鳥羽市は非核平和都市

鳥羽市は1986年6月20日に非核平和都市を宣言して30年が過ぎました。最初の非核宣言を行ったのは、米ソ冷戦中の1980年、イギリスのマンチェスター市です。この行動をきっかけに、非核宣言運動は世界中に広がりました。日本でも1980年代から非核宣言を行う自治体が増え、現在では日本の自治体の約9割が核兵器廃絶や非核三原則の遵守などを求める宣言を行っています。

戦後71年経った今でも核兵器は依然として存在し、世界の平和にとつて大きな脅威となつていきます。本市は世界の恒久平和と人類の安全の確保のため、核兵器の廃絶と軍備縮小を全世界に訴えるとともに「持たず・つくらず・持ち込ませず」の非核三原則がすべての国の原則となることを願っています。

原爆と人間展

市立図書館
☎ 26 4555

戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるため、市立図書館では「原爆と人間展」を開催しています。ヒロシマの原爆写真パネルなどの展示と戦争や平和についての本を集めてありますので、ぜひお越しください。

展示期間 8月31日(水)まで

